

JA愛知県厚生連 知多厚生病院 外科



【当院の理念】

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会作りに貢献します。

【当院の特色】

1. 腹腔鏡手術の適応拡大

現在、進行癌を含めた大腸癌手術の80～90%を腹腔鏡下に行い、順調な経過で早期退院が得られています。

腹腔鏡手術後は、術後の炎症反応は非常に軽微で、これにより術後の筋肉喪失・体重減少・術後合併症（縫合不全や創感染）がほとんど発生することなく、早期の退院が得られる非常に有用な方法です。

外部医師の協力を得て、早期胃癌に対しても腹腔鏡下手術を導入しております。

鼠径ヘルニア手術では、最も理想的な根治的な方法である腹腔鏡下手術(TAPP法)を積極的に行っております。過去6年間の143例中再発例は1例も認めておりません。同術式は全国的に拡大しつつあり、小森内視鏡外科医長は、名古屋大学系列である知多市民病院、東海市民病院（これらはH27年5月に西知多総合病院に合併）、常滑市民病院、碧南市民病院に出向いて技術指導を行い、当院は知多半島におけるTAPP手術のリーダー的存在となっております。

2. 外来化学療法

新規抗がん剤の開発・進歩によって、10年前は約半年であった進行再発大腸癌の予後は約3年に至るまで延長されており、奏効例には肝切除・肺切除を追加することで根治される例も現在では珍しくなく、どんな進行癌でも常に根治を視野に入れた集学的治療を行っております。当院でも外来化学療法を積極的に展開しております。

3. 術後早期経腸栄養を含めた栄養管理

消化器を切除することで生じる消化吸収障害と体重減少の軽減をはかり、退院に向けて順調な経口摂取への移行に尽力しております。術後の体重減少が大きいほど抗癌剤は効きにくくなり、予後が短くなるとの研究報告があり、当院でも研究活動を行っています。

4. 胃癌術後の生活の質 (QOL) 上昇

術後の体重減少が最も顕著にみられる胃癌患者さまに対し、根治性を損なわない範囲で切除方法や再建方法を工夫し、術後長期のQOLを改善できるよう尽力しております。

病床数	259床	一般(含 回復期54)療養 感染症	199床 54床 6床
手術件数 (2016年度)			312件
